

第2回 遊びから学ぼう ワークショップ 開催報告書



2019年8月

目次

1. 概要	4
(1) 開催日時・会場	4
(2) プログラム	4
2. ガイダンス	5
(1) 教育総合センターの整備概要	5
(2) 一般開放部分を、ワークショップで検討	6
3. ワークショップの記録	7
(1) 基調講演	7
(2) グループワークの進め方	14
(3) グループ毎の記録	16
(4) 全グループのまとめ（主な意見）	24
(5) 講評	28

1. 概要

(1) 開催日時・会場

日 時：2019年7月17日（水） 13：00～16：30

会 場：世田谷区教育センター 大研修室「ぎんが」

(2) プログラム

13：00（15分） 開会

ガイダンス 新教育センター整備担当課長 北村 正文

13：15（30分） 基調講演 「響き合う内と外の関係性

ーイタリアのレッジョ・エミリア市の実践からー」

鶴川女子短期大学国際こども教育学科 森 眞理 教授

13：45（10分） ～休 憩～

13：55（105分） ワークショップ（4グループ）

Q1 広場で、だれがどんな活動をしたいですか？

Q2 その「遊び」を実現するために、「どんな環境、なに」が必要か？
どこから始めればいい？

15：40（10分） ～休 憩～

15：50（30分） 発 表

16：20（10分） 講 評

16：30 終 了

2. ガイダンス (ワークショップ開催趣旨)

(1) 教育総合センターの整備概要

乳幼児期からの教育・保育の推進をはじめ、教育研究・研修や総合的な教育相談など世田谷区の質の高い教育を推進する拠点として、現在の若林小学校の場所に「教育総合センター」を新たに開設します（令和3年度（2021年）開設予定）。

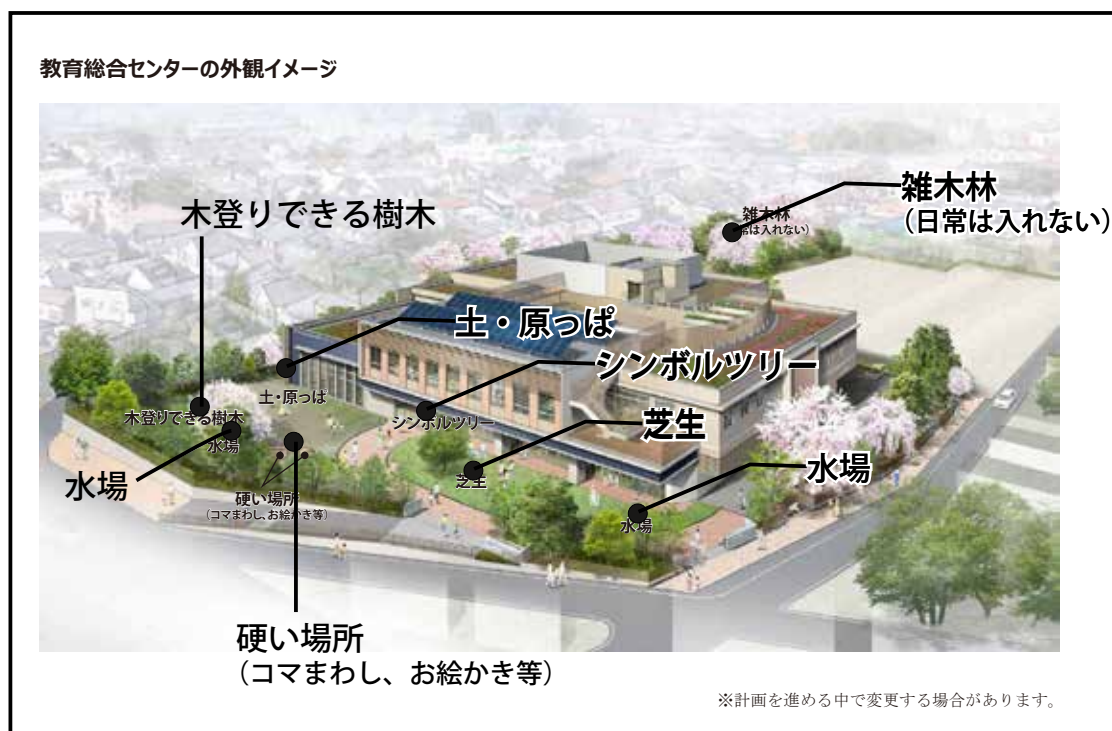
【交流ゾーン】

世田谷の教育を発信する魅力的な空間

- ・区民が気軽に訪れ、世田谷区の教育に関する情報・資料等にふれる場
- ・未就学・未就園の親子が、世田谷の教育を知る場
- ・ミニイベントなどをおし、賑わいを創出し、区民が世田谷の教育に参加・参画する場

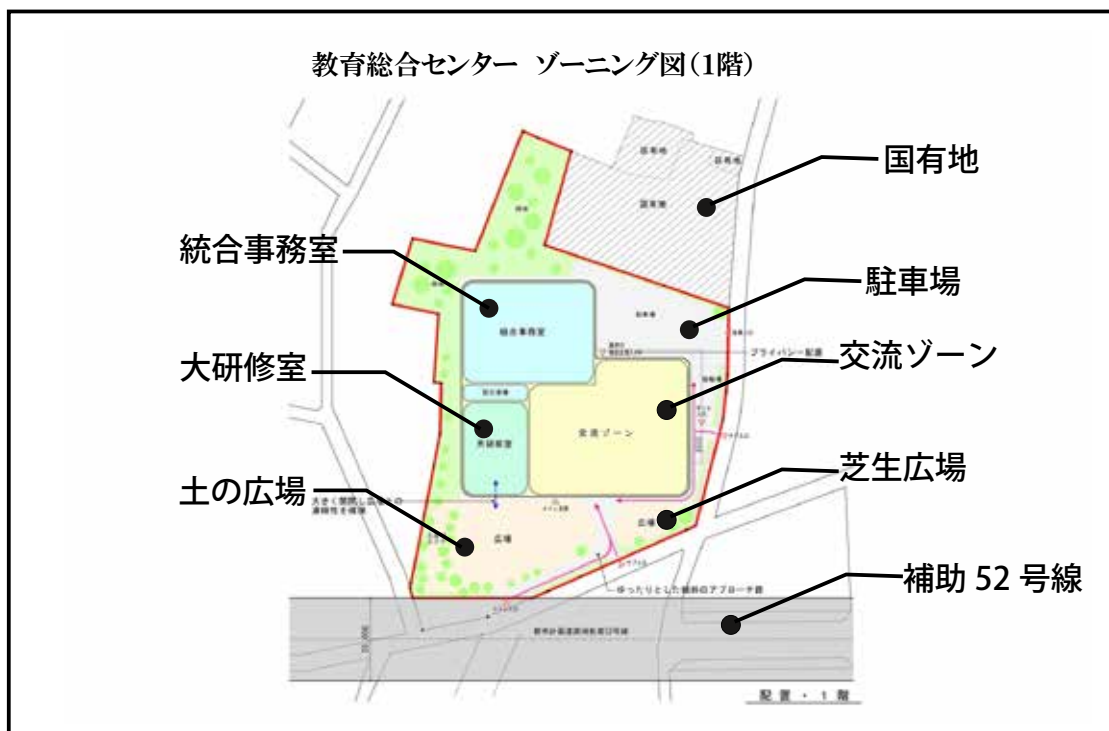
【広場】

- ・乳幼児期を始め、子どもに必要な外遊びの場
- ・健やかな心と体づくり、遊びをとおした学び、体験・体感の場を提供



(2) 一般開放部分を、ワークショップで検討

教育総合センターの1階部分のゾーニングは、以下の図のとおりです。



開設までの期間では、乳幼児教育の推進に向けて、教育総合センターの交流ゾーン（室内）や広場（室外）の連携した活用をめざし、実際に利用する教員・保育者、保護者や地域の方等に参加いただくワークショップを継続的に開催して、皆さんと一緒に考えていきます。

今年度は2回開催を予定しており、各回のテーマは以下のとおりです。

- 第1回目<7/17> 屋外の広場について
- 第2回目<秋に予定> 屋内の交流ゾーンについて

3. ワークショップの記録

(1) 基調講演

「響き合う内と外の関係性

ーイタリアのレッジョ・エミリア市の実践からー」

鶴川女子短期大学国際こども教育学科 森 眞理 教授

基調講演の概要

◆配布資料



本日の話しのポイント

「レッジョ・エミリア市の乳幼児教育との対話

- **なぜ、今、レッジョ・エミリア？**
 - 日本と世界の乳幼児教育・保育の動向との対話から
- **レッジョ・エミリア市の乳幼児教育実践から「内と外の関係性」を考える**
 - 子ども観（子どもたちの100の言葉）保育/教育観
 - 街（地域）が保育実践の素材
 - プロジェクトツォーネ(プロジェクト)
 - ドキュメントツォーネ(ドキュメンテーション)
 - 「一人一人」子どももおとなも誰もが、遊びと学びの主人公へ
 - 「一人一人」子どももおとなも誰もが、まちづくりの主体として

今、乳幼児期からの教育で求められていること
= 人格形成と学びの基礎形成

暗記型

記憶型

結果主義



活用型・主体的な学び

展開型・対話的な学び

過程主義・深い学び

Gutman, L.M., & Schoon, I. (2013). The impact of non-cognitive skills on outcomes for young people. Education Endowment Foundation.
文部科学省 「幼児期の非認知的な能力の発達をとらえる研究－感性・表現の視点から」『平成27年度 文部科学省 「幼児教育の質向上に係る推進体制等の構築モデル調査研究」いわゆる「非認知的な能力を育むための効果的な指導法に関する調査研究」2016年。

日本の幼児教育のこれから：
「主体的・対話的で深い学び」
(アクティブ・ラーニング) の実現

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
周囲の環境に興味や関心を持って積極的に働きかけ、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの遊びを振り返って、期待を持ちながら次に繋げる	他者との関わりを深める中で、自分の想いや考えを表現し、伝え合ったり、考えを出し合ったり、協力したりして自らの考えを広げ深める	直接的・具体的な体験の中で、見方や考え方を働かせて対象と関わって心を動かし、幼児なりのやり方やペースで試行錯誤を繰り返す、生活を意味あるものとして捉える

レッジョ・エミリア市 (イタリア) の乳幼児教育実践に学ぶ



イタリアのエミリア・ロマーニャ州(北部)
(モデナとパルマの間)

通常急行：ミラノまで1時間、ローマまで4時間
→(現) 高速鉄道停車 (ミラノまで約40分、ローマまで2時間強)

人口：171,655 (M 83,279; F 88,376) (2001年約14万人/2010年約16.5万人) 出典：Ms. Luca Vecchi, the Mayor of City of Reggio Emilia 2017. 2. 20

(うち2016年16%イタリア外国籍：
アルバニア2.06%、モロッコ1.81%、中国1.58%)
社会・経済：

(旧) 産業：製造業(工場)・農業中心
→(現) 研究・開発 (病院・教育施設)

レッジョ・エミリア市概要

肥沃な土地・レジスタンス・共同体

『NEWSWEEK』1991年12月

子ども観：市民としての子ども・100の言葉を有する子ども

乳幼児教育観：

権利としての教育、平和の道のりとしての教育

誰もが主人公(当事者)：ペダゴジスタの役割

アート：アトリエとアトリエリスタ（幼児学校常駐）

プロジェクトツォーネ

参加・対話・連帯の具現化・思想と行動の一体化

ドキュメンテーション：

子どもと共にある成長/学びの軌跡・保育者の方略地図

街ぐるみで子どもを育てる：

交通規制、アートギャラリーとしての街並み(自転車)、

REMIDA(DAY)、REGGIONARRA、

市民による乳幼児教育保育施設命名

◦人口のうち 0～5歳 5.7%

◦（日本は5.0%：2016年5月）]

◦就園率：

◦乳児保育所43.19%(1643/3804人)

（イタリア平均17%、欧州平均33%）

◦幼児学校 90.85% (4267/5093人)

◦(住民登録の子どものうち：自治体立・私立・共同体立含)

◦出典：Japanese Study Group Session 2018. 11. 5.

◦乳幼児教育への歳出：

◦市の予算の15-16%

幼児教育の変化

◦乳児保育所（0-3歳） 12

◦幼児学校（3-6歳） 21

◦(乳児保育所/幼児学校（0-6歳） 10)

◦幼児学校/小学校 1（2017年2月現在）

[参照：13乳児保育所・21幼児学校（2001年）]

◦(旧) 乳児保育所と幼児学校

◦→(現) 乳児+幼児教育保育施設・小学校への連続性

（出典：Ms. Luca Vecchi, the Mayor of City of Reggio Emilia 2017. 2. 20）

根幹となる「乳幼児教育保育観」

・教育はすべての人、すべての**子どもの権利**であり、それは**コミュニティの責任**である」

・「教育は**個人の成長と解放**の機会である、すなわち、知識を得ることと共に、生活するための**学びの資源**であり、**自由と民主主義と連帯**が実践され、**平和の価値観**が促進される**出会いの場**である。」

レッジョ・フォルティ編、森真理・渡邊耕司和訳

『レッジョ・エミリア市自治体の幼児学校と乳児保育所の指針』Preschools and infant-toddler centres Municipality of Reggio Emilia. , 2014年

レッジョ・エミリアの乳幼児教育観と実践 (環境構成)の関係性

① 誰もが主人公 (当事者)

豊かな子ども (Rich Child) = 豊かな大人

→ 学校は子どもと大人が協働的に文化を創造する場である

② 教育は「権利であり、コミュニティの責任」

子どもが独自の言葉 (100の言葉) を持っていることを尊重すること。子どもに聴き入ること (聴き入る教育)

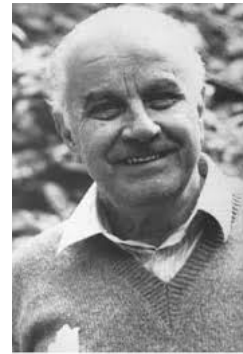
③ 生活はアート (芸術)

子どもが100の言葉を表現する、自由に表現できる関係を持つ空間 (場所) を創ること。美しさの尊重と探究。

乳児保育所と幼児学校は、探究・喜びを見出す・創造的な生活空間

LORIS MALAGUZZI の「子ども観」： 子どもたちの100の言葉の根幹

- ① **主人公**である：
権利の主体である
- ② **可能性**に溢れている
- ③ **有能**である
- ④ **研究者**である
- ⑤ **市民**である



Loris Malaguzzi

森眞理 『レッジョ・エミリアからのおくりもの』 フレーベル館、2013年。

レッジョ・エミリアにおける 「子どもの権利」とは？

- 生まれた時から市民である(ことを保障する)
- 子ども独自の学び方、学ぶ道を有する(ことを保障する)
- 自分が他の市民と関係を持てる(ことを保障する)
- モノゴトに驚き、望み、好奇心を有する(ことを保障する)

* 必要性ではなく「権利」としてあるということ

* 子どもたちが「権利」を創る主体であるということ

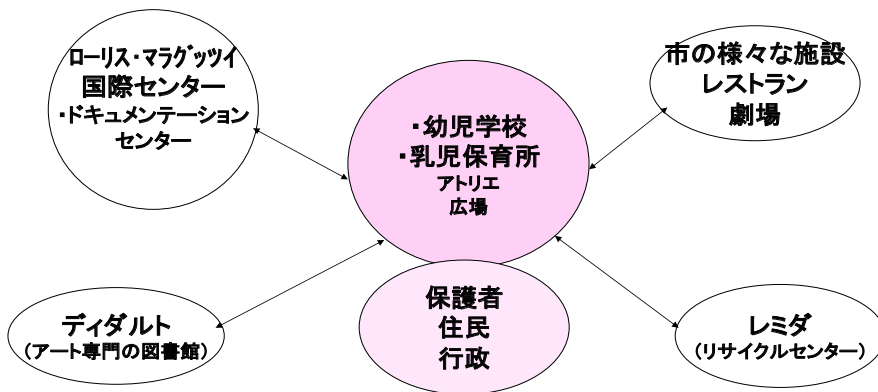
出典：Japanese Study Group Session 2018. 11. 5.

“Piazza e Piazze” ヴィデオ視聴から

- 子どもを学校（乳児保育所・幼児学校）の中に閉じ込めない
- 子どもが街の中でみえる（透過性・透明性）
- 子どもと街が繋がっている
- 子どもが街に対することば（思い・願い・考え）を表す

- 子どもが**市民**として生きている！
- 子どもの声（ことば）に**聴き入る**こと！
- 『**関係性**』の大切さ！

町並みと乳幼児教育の関係



でも、百はある

- 子どもには 百とおりある。
子どもには 百のことば 百の手 百の考え 百の考え方 遊び方 や話し方
百いつでも百の聞き方 驚き方 愛し方 歌ったり
理解するのに 百の喜び
発見するのに 百の世界
発明するのに 百の世界
夢見るのに 百の世界がある
子どもには 百のことばがある
…それからもっともっともっど…
- けれど九十九は奪われる
学校や文化が 頭とからだを バラバラにする
- そして子どもに言う
手を使わずに考えなさい
頭を使わずにやりなさい
話さずに聞きなさい
ふざけずに理解しなさい
愛したり驚いたり は 復活祭とクリスマスだけ
- そして子どもに言う
目の前にある世界を発見しなさい
そして百のうち 九十九を奪ってしまう
- そして子どもに言う
遊びと仕事
現実と空想
科学と想像
空と大地
道理と夢は
一緒にはならないものだ
- つまり百なんか無いという
- 子どもはいう
でも 百はある
- ローリス・マラグッツィ
◦ (田辺敬子 和訳)

乳児保育所の
プロジェクトオーナー
(プロジェクト)
「公園は・・・」



なぜ、世界では、
レッジョ・エミリア市の乳幼児教育に着目するのか？

- 「教育は全ての人、子どもの権利」と表明し、子どもを敬愛する市民として捉え、子どもの発見・驚き・疑問に保育者を始めおとなが目と耳を傾け生活文化を創造
- とことん子どもに聴き入ること・聴き合う関係性・対話
⇒「子どもの100の言葉」
- 狭義のアート⇒生活すべてがアート
⇒ 平和への創造
- 閉ざされた保育空間から開かれた（街）保育空間：
⇒ コミュニティ・プロジェクトとしての実践へ

世田谷区のこれからに向けて

- 子どももおとなも主人公
 - 子どももおとなも面白い生活へ
 - 参加・対話・連帯(繋がる)のある生活へ
- 子どもは市民！
 - 子どもの100の言葉を大切に（聴き入ることから）！
 - こども園から地域へ：地域からこども園へ
- 遊びを通しての学びの可視化（見える化へ）
 - 子どもの姿がみえる環境づくり（「三間」（時間・空間・仲間／人間）の向上）！
 - ドキュメンテーションをはじめとする双方向のコミュニケーションを

引用・参考文献

- 秋田喜代美「主体的な遊びを育てることの価値とアボリア」『発達』ミネルヴァ書房、2017年、P.18.
- C.エドワーズ他 佐藤学・森真理・塚田美紀訳『子どもたちの100の言葉ーレッジョ・エミリアの幼児教育』世織書房、2001年.
- Cagliari, P., Castagnetti, M., Giudici, C., Rinaldi, C., Vecchi, V. & Moss, P. "Loris Malaguzzi and the Schools of Reggio Emilia A selection of his writings and speeches, 1945-1993." London: Routledge, 2016.
- ミネルヴァ書房「なぜいまレッジョ・エミリアなのか」『発達』156 Vol.39.,AUTUMN,2018年.
- 森真理 『レッジョ・エミリアからのおくりもの』 フレーベル館、2013年.
- Reggio Children編, 森真理、渡邊耕司訳 『レッジョ・エミリア市自治体の幼児学校と乳児保育所の指針』、レッジョ・チルドレン、2014.
- 佐藤学監修『驚くべき学びの世界 レッジョ・エミリアの幼児教育』 Access Co. Ltd.、2011年.
- https://www.nier.go.jp/06_jigyousymposium/sympo_h28/files/05_muto.pdf
- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/044/001/shiryos_files/afieldfile/2017/08/28/1394385_003.pdf



(2) グループワークの進め方

4つのグループに分かれて、意見交換を行いました。

1) 自己紹介

- ・グループ内で、簡単な自己紹介。

2) Q 広場で「だれが」「どんな」遊びをしたいですか？

- ・個人ワークで、Qについて各人がフセンに書き出す。(3分)
- ・個人で書いたフセンを一枚ずつ、模造紙の上に出し合う。似ている意見のフセンは近くに置き、意見を整理しながらグループで共有する。(20分)

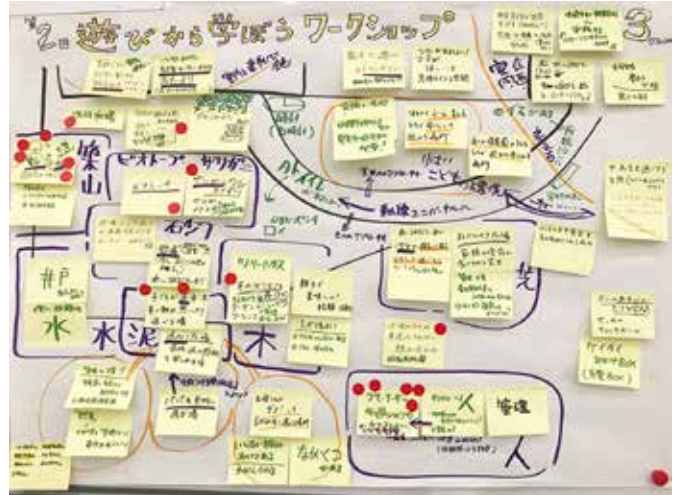
3) 「実現したいこと」「大切にしたいこと」にシールを貼る

- ・これまで出し合った意見を振り返る。
- ・赤色のシールを一人3コ持ち、個々人が「大切にしたいこと」にシールを貼る。[報告書内では、シールが何枚貼られたかを(●シール×5)と表記する。]

4) 発表の準備

- ・発表者を決める。
- ・●シールが貼られた数を眺めながら、発表したい内容を検討。

各グループの意見がまとめられた模造紙



(3) グループ毎の記録

グループ1

広場で、だれがどんな活動をしたいですか？

【こんな「遊び」があったらいいな】

■子どもが何をしたいのか (●シール×1)

- ・思い切り走ることができるスペース
- ・集めたい、触れたい、のぼりたい、隠れたい、投げたい、跳びたいなど、子どもの「したい」を大切にする
- ・集めたい、触れたいに関しては、例えば、どんぐり、梅の実、イチヨウの葉、木の枝、タンポポなど。これらは採ってもOK、つぶしてもOK。
- ・のぼりたい気落ちを受けとめる施設（木はもちろんだが、少しの段差、フェンス、ロープなどがあっても良い）
- ・体験値を増やすことが子どものセンサー感度を上げることであり、それによって判断力がつく (●シール×1)
- ・花を摘んでも良い花壇があると良い。

■汚れてもOK だろんこOK

- ・汚れてもOK、絵具、だろんこになれる。
- ・ボディペインティングができる、絵具を使える。
- ・だろんこ遊びができる、水・土が自由に使えるエリア。
- ・泥遊び、水遊びができる。
- (水はどこから引くか、その泥はどこへ流れるか、手足などどこで洗うのか、こうしたことに配慮しないと泥遊びや水遊びはできない)
- ・心を解放する遊びをさせたい（水、土、風、草に触れられる）。

■木登りができる、火が扱える

- ・木登りができることは大賛成である。
- ・かまどが使えると良い。
- ・木のぼりをしたくなる木はじつは実のなる木であることが多い。
- (夏みかん、びわ、グレープフルーツ、ブルーベリー、柿など)

■生きものの住処づくり (●シール×1) / 自然、虫 (●シール×1)

- ・自然、虫、水、高低差、摘み取れる草花。
- ・小さな生きものが住める自然のエリア。
- ・トラップ（かぶと虫などを捕るためのワナ）がしかけられる。
- ・芝生は必要か？ この場所にきれいな芝生は不要ではないか。
- ・芝生よりも、野原、シロツメクサ、タンポポが生えている方が良い。
- ・蚊がいるとあって嫌がる親もいる（それでも自然があった方が良いという趣旨で発言）。

【大人の関わり、場所】

■違う年齢の人や違う年齢の子ども、親子で来られる場所 (●シール×1)

- ・ベンチはあるか？ 違う年齢者（高齢者等）がただ居られる場があると良い(●シール×1)
- ・小さい子どもの場所になると良い。
- ・年齢層の違う子どもが遊べる場所（上の年齢の子どもの遊びを見て、下の年齢の子どもが遊び方を知る）。
- ・子どもだけではなく「親子」のための場所。

■大人が楽しめる／親の体験値を上げる（●シール×5）

- ・外遊びの経験がない子どもがどう遊べるか？ 大人の役割が大切である。
- ・子どもから教わること、気づく大人が育つことができる（●シール×1）
- ・他の子どもと関われる、見ていられる。
- ・自分の子ども以外の子どもから学ぶ（自分の子どもは心配になってしまい失敗などを見ていられないが他の子どもは客観的に見られる）（●シール×1）
- ・子どもの遊びの楽しさを知らない大人にも来てほしい。
- ・親と子どもの関係が大切である。
- ・大人としての体験値を上げる。
- ・一緒に遊べる大人が増えないと子どもも楽しくない！

■コーディネーター／大人の見守る目（●シール×5）

- ・広場のコーディネーターが必要である（●シール×1）
- ・見守る人、気づける大人、子どもの遊びを活発化する大人の存在が大切。
- ・遊べる大人があそべる子どもと遊びを深く、面白くする。「わくわくさん」
- ・全体のプロデューサーはどのように考えているのか？ ソフトのしくみが大切。
- ・子どもにとっては、できないことも大切な体験なので、(子どもが失敗しても)手出しをせず、見ていられる辛抱ができる大人でなければならない。

【気になること】

■モノをつくとルールができてしまう（●シール×3）

- ・（計画の案で示されている）絵が描ける場所、“かたい場所”ってどんな感じ？
- ・“かたい場所”はわざわざいるのか？ 子どものために「作ってあげる」という上から目線を感じる。
- ・できることを自分で探せる場所になると良い。
- ・道具は必要ない。道具には（こうしてはダメという）ルールがついてくる。
- ・普通の公園は禁止事項が多い。ここではできるだけ禁止事項を少なくしたい（ボール遊びができるなど）。

【今後の計画の進め方】

■施設づくりに「子どもが見える人（普段から子どもに触れている人や専門家）」の参加を

- ・子どものことがよくわかっている人は世田谷にもたくさんいるので、そういう人に施設づくりの段階から関わってもらう必要がある。

■つくる人としての大人の役割（●シール×1）

- ・今回の計画を見ると「何かをしてあげる」感がつよい。広場のしつらえは再検討が必要である。まっさらにしたい。
- ・子どもの行動から、それを意味付ける作業。大人の役割が大切。
- ・子どもを解き放った時にどうするか、動くか→それを大人が見ている、聞き入る。
- ・子どもに「聞き入る」ということ→「活かす」ということにつながる。
- ・見えないところを考えてつくる、よくよく計算してつくる。

■ここでの成果をさらに研究してフィードバックすること(循環させる)(●シール×1)

- ・子どもがやったことを大人が記録し、考え、また子どもに返す。

グループ2

広場で、だれがどんな活動をしたいですか？

【この場所の特徴】

■利用対象

- ・すぐ近くにある世田谷保育園は散歩に来る。
- ・原っぱは、乳幼児、園児、未就園児、小学校低学年も遊びにくる。

■特徴

- ・プレーパークとのすみわけを考えたい。ここは、「大人が関わらないでも安全な場所」など。
- ・大人は交流スペースなどから広場を見ながら、「子どもはこうやって友達を作っていくのね」などを学びながら、遠くから見守る。

■大人もくつろげる

- ・ママ、パパが子どもを見守れる、高齢者もくつろげるベンチ。
- ・日本庭園

■目玉

- ・目玉で人がくる
- ・トランポリン（●シール×5）
（体幹を鍛えられる）（Ex. 昭和記念公園や立川ショッピングモールららぽーとにある、白い山。小さいものも人気）
- ・アスレチック（樹木をゴムでつなぐ）
- ・火が使える場所
（焚火、ピザ窯、花火<現在若林小ではできない←防災イベントだとできるか>）
- ・ツリーハウス（段ボールで滑る）
- ・シンボルとしておしゃれ時計
（おしゃれ時計公園に行こうと言われるようになったり、子どもが時計盤を読む練習にもなる）

【土の広場の要素】

■どろんこ / 水場（両方必要）（●シール×3）

- ・保育園でのどろん遊び楽しい。公園ではできないこと。
- ・どろんこ遊びができる（砂場、水場）。
- ・砂場（水場の近くがいいか）
- ・気にしないで触れる場所。サラサラな砂が、水場でドロドロになって面白かった記憶がある。
- ・夏、暑い時に遊べる水場
- ・水遊び

■穴（●シール×2）

- ・穴を掘れる場所

■ビオトープ（●シール×2）

- ・ビオトープ
- ・ビオトープ
- ・ビオトープを小さい子どもがじっと見ている、何かを感じている。
- ・ビオトープは、生態系がわかる、蚊が発生しない方法もある（カエル、メダカ、ヤゴを飼育）。

【こんなあったらいいな】

■かくれられる樹木（●シール×2）

- ・迷路のような樹木
- ・大きな樹木（虫、鳥、実がある、登る、ぶらさがることができる）
- ・適度に隠れられる場（大人が声をかけず見守れる、子ども同士が考えたり会話したりできる）

■らくがき

- ・落書きスペース（室内、屋外、床、壁）
- ・ローセキで描く、黒板の床（●シール×4）

■走れる

- ・走り回れる広さ
- ・走り回る人が入り込まないしきりで守られた空間も必要。

■赤ちゃん用スペース

- ・赤ちゃんが探検できる、「つき山、すりばち」。

【室内の要素】

■工房

- ・広場でどんぐりをとったりしたら、それでものづくりができる、製作の場所が欲しい（室内になるかもしれない）。

【気になること】

■芝

- ・芝はだめにならないか
- ・養生期間は使えない

■ルール

- ・小さい子どもの安全を守る工夫が必要。
 - 1) 対象を乳幼児限定にする
 - 2) 年齢により使用の時間帯を決める
 - 3) 年齢によりゾーンを分ける（例えば、小さい子どもが使う場所は「バブバブ広場」とするなど）
- ・子どもがのびのびと遊べる場にする工夫が必要。
 - 1) 大人禁止区域をつくる
 - 2) 文句をいう人は入れません（「ここは子どもの創造を育む場」である主旨を伝える）
 - 3) 近隣の理解を得る、大人の意識改革が必要
- ・安全な広場にするために、入口に警備員が必要。

グループ3

広場で、だれがどんな活動をしたいですか？

【土の広場の要素】

■築山（●シール×5）

- ・凹凸がほしい／隠れたり／ハイハイで登れる／木や池もある／土管（トンネル）

■ビオトープ（●シール×1）

- ・ザリガニ釣りができる小川／ザリガニやメダカが持ち帰れる（●シール×1）
（参考：杉並和田堀公園）

■砂（●シール×1）

- ・幼児～小2くらいまで対象にした砂場（近くに水道必要）
- ・砂場の泥遊びが発展するようなキッチン・おままごと用具

■泥（●シール×1）

- ・子どもが泥・水・草木に触れ思いっきり遊べる場
- ・泥んこ広場（常時泥の感触を楽しめる場）
- ・お母さんにダメって言われずに遊べる場所
→いらぬ服が置いてあり着替えられる・長くつがある

■水

- ・使い放題の水／井戸を活用できないか
- ・水場は二箇所 →①砂・泥の近くで遊びに使える ②建物近くに洗い場（●シール×1）

■木

- ・ツリーハウス／木登りできる森（林）（●シール×1）
- ・ターザンロープ／ブランコ
- ・食べてもよい実のなる木／収穫の日がある／ジャム・染め物に活用
- ・親子で美味しい経験・活動ができる
- ・樹種（サルスベリ・栗・ビワ・楠・榿・あんず）

■日よけができる休憩スペース

- ・東屋・キウイ棚（室内でも？）（●シール×1）
→子どもが遊んでいる間の休憩できる／建物にグリーンカーテン

【芝生広場の要素】

■裸足になれる

- ・芝生で裸足になる／裸足で過ごせる／ハイハイもできる

■おべんとう広場

- ・家族で昼食が食べられる芝生

【その他の要素】

- ・時計（日時計）
- ・かまどベンチ
- ・アプローチ沿いにベンチ／背もたれや仕切りのないベンチ
- ・動線はユニバーサルにする（遊び場に行く際の配慮も必要）
- ・中高生も過ごせる空間（カゲのあるスペース作り）
- ・ボール遊びできる空間（サッカー・キャッチボール）

- ・地域の方々が身近に動物に触れあえる移動動物園（●シール×1）
- ・携帯預けボックス（充電かねる）←携帯を手放して子どもと遊ぶ意図で
- ・子どもが気軽に入れる様に柵やゲートなどが冷たくなくあたたかい雰囲気のある場所になってほしい。子ども子どもしてない大人の側から迎え入れる空気

【室内の要素・室内と連動した企画提案】

- ・親子で遊べるトランポリン
- ・ママがほっと息抜きできる空間（コーヒーがあるとよい）
- ・季節ごとに子どもと楽しめる「飼育教室」（ザリガニやメダカ）
- ・子どもに向けた教育センターからのお便り（最近の利用状況など）
- ・高齢者が子どもへ昔の遊びを教えるコーナー
- ・外で子どもが店をだす（企画→準備→開店／買うのは大人）
 - 中高生が定期的実施して「小さい子どもたちにみせる
 - 大学生も参加
 - 活動の窓口になる

【管理への指摘・留意事項・懸念点】

■土のある広場の管理

- ・泥・土・築山は維持管理に手間がかかる
 - （参加者の）南大蔵保育園では職員と年長さんで維持している
- ・「野育（のいく）」→地域で管理している事例が増えている
- ・父親が来やすくなるきっかけとして維持管理の役割があるとよい

■芝生への懸念点

- ・養生期間長く、入れないのはもったいない
 - むしろ雑草でもよい

■異年齢の区分け

- ・近くの保育園の子どもたちが遊びに来られる場所
- ・なるべく小さい子どもたちが安心して遊べる場所
 - 空間で分ける・時間で区切るなど異年齢の区別は必要

■行けばいる「人」

- ・地域の人や大学生が見守りするのはどうか→地域だけで対応は難しい→プレーリーダーなど外遊びのプロがいるとよい（●シール×5）
 - 「放課後子供教室」（文科省）を活用すれば人件費がまかなえるのでは？
- ・子どもの声や意見を受け止めてくれる場所になるため

グループ4

広場で、だれがどんな活動をしたいですか？

【前提の整理】

■利用者の想定

- ・平日の昼間は就学前の子どもが中心になりそうで、保育園の散歩などに利用されそう
- ・放課後、近所の小学生は若林公園で遊んでいるが、屋内を使うニーズがあるので小学生も利用する可能性がある

■実際の利用が想定される世代の子どもの意見を聞いたほうが良い

- ・遊びの内容を聞くのであれば、当事者である子どもの意見を聞いた方が良い

■遊び方が決められた遊具を設置するのではなく、自然な環境の中で、子どもたちが自由に考えて遊べるサポートを整えることが大切

【施設の整備に関すること（主にハード）】

■水を使って子どもが自由に考えて遊ぶ環境をつくる（●シール×1）

- ・泥んこ遊び、土、小川 ・水の生き物などと触れられる
- ・水が流れている ・じゃぶじゃぶ池（石か土か？） ・流れている水場と好きに使える容器

Point: : 泥んこゾーンに行けない子どもたちを対象に、遊びの入り口として、硬い地面に薄く水が張っている、噴水のようなものがつくれると良い

Point: : キレイな水場で、広場のシンボルになると良い

Point: : 外周を流れる、浅くて小さな小川があると良い

■乳幼児のためには、起伏や斜面、段差やデコボコが必要（●シール×5）

- ・築山、デコボコ、斜面 ・段差 ・山と穴 ・山の坂を滑り落ちる
- ・ごろごろ転がり落ちる遊び ・はいはいができるお山が欲しい（芝生）
- ・ボルダリング、大規模であれば大きい子どもも遊べる、小さい子どもは下の方を使う（室内でもOK）
- ・石垣を登り降りして遊び、下の方にはクッションになる砂場

Point: : 芝生や植物がある築山だと、根付かせる期間や養生が大変になるため工夫が必要

Point: : 段差があると、登り降りやかくれんぼ、ステージやイスなど、子どもが自由に考えて遊べる

Point: : 築山は大規模ではなく、樹木の根っこの盛り上がりのような小さな所でも十分遊べる

■大人の目から隠れられる隠れ家がつくれると良い（●シール×2）

- ・オープンでないスペース（隠れられる場所）、でも見通しが良い
- ・土管と築山 ・小道のような隠れることができる場所 ・トンネル
- ・小屋をつくれて、中に入って遊べる空間、ごっこ遊びができる場所 ・冒険できる場所

Point: : トトコの小道のように、低木を植えた場所の隙間を子どもたちが見つけて大人の目から隠れられる環境があると良い

■木を使った遊びができる環境を整える（●シール×5）

- ・枯れ落ちた枝を使って遊べるように、枯れ枝が落ちやすい樹木を植えたい
- ・どんぐりの実や自然なもので、おままごとができるスペース
- ・草花を摘んだり、木々で遊べるスペース ・雑草、四季の草花、クローバー
- ・芝でなくシロツメクサなどの養生がいらない植物を植えたい（●シール×1）
- ・木登りができる木 ・大きい根っこをよじ登って超えるようなカツラの木
- ・ハイジのブランコ ・ロープをかけても折れない木 ・四季折々の木 ・草を生やす
- ・おしろい花を植えて色水遊びをする ・ぶどう棚のツルの強さを使った遊び

■切った木を遊具やイスに再利用するプロセスをみんなできると良い（●シール×2）

- ・伐採した木で遊具をつくる

- ・丸太で作ったテーブルやイスなどを自由に移動させて遊びに利用する
- ・木の遊具

■子どもたちが学校帰りに花の蜜を吸って遊ぶように、子どもが自由に、勝手に食べられる木の実はなる樹木を植える（●シール×1）

- ・実のなる木
- ・季節ごとに実のなる木を植える
- ・食べられる実（ヤマモモ、レッドベリー、ドドメなど）
- ・食べ物が実る（梅、桑の実、柿、グミ、イチジク、夏みかん、ゆずなど）

■外でみんなでピクニック、飲食ができる環境を整える

- ・のんびり昼寝やピクニック
- ・外で飲食できる
- ・お昼が食べられる、手が洗える、座れる
- ・移動できるイスやベンチ
- ・丸太みたいなイスとテーブル

Point: 子どもにとっては、友達と一緒に外でピクニックをしたり、ごはんを食べるのが楽しい

Point: 自分でイスやテーブルを持ってきたり、見立てたりして、食べられる環境がつけると良い

Point: ほっとスクールで畑をつくるのも良い

■火を使って食べられる環境ができると良い

- ・焼いて食べる活動（七輪、かまど）
- ・火あそび（かまどベンチ）
- ・火を使って自分でつくって食べられる場所
- ・屋内と屋外を行き来しながらピザ窯、ジャムとパンづくり

Point: 広場に落ちている木の実を集めて、交流スペースのキッチンでジャムやピザ、パン生地をつくり、広場のピザ窯で焼いて食べることができると、屋内と屋外の関係性を上手に使える

Point: 地域ボランティアに手伝ってもらい、常時でなくて良いので火を使って食環境ができると良い

Point: 誰かしらの人手が必要になるため、予約制にする

Point: 農協とコラボしながら、野菜・米づくりを教えてもらい、調理までする

■小さい子どもが裸足の感覚を持てるようにする

- ・裸足で歩けるゾーン
- ・裸足で遊べる空間

■カラフルなタイルで楽しめるようにする（●シール×2）

- ・壁面に絵の具でペタペタ
- ・タイル貼りで模様がある（うず、市松模様など）
- ・タイルを並べて好きに遊べる場
- ・カラフルなタイルでシンボルをつくる

Point: 広場内通路は一般的な舗装ではなく、カラフルなタイルやビー玉を埋め込むなど、遊び心を持ってデザインすることで、子どもの遊び場にも使えるようにしたい

■滞在時間を伸ばすため、大人のためにも日陰をつくった方が良い

- ・日陰
- ・木々があれば日陰もできる
- ・木の間にロープを渡し、遮光カーテンのように利用

Point: 大人の滞在時間を伸ばさなければ、子どもの滞在時間も伸びない

Point: 大人にとって心地よい環境をつくるためにも、日陰の空間が必要

■子どもが「やりたい！」と言った時のために準備しておきたいグッズ（●シール×3）

- ・体幹を鍛えられる遊具（スラックラインなど）
- ・平均台、コンパネ、ロープ、ボックスなど、遊具を自分でつくれる準備
- ・ハシゴやロープで渡る場所
- ・ツリーハウスをつくれるような準備
- ・古タイヤ、ロープ、水道管
- ・子どもが使えるリヤカー

■泥んこに汚れた時に洗い流せるスペースも必要

【運営や仕組みに関すること（主にソフト）】

■地域のシニアやボランティアに手伝ってもらいながら遊び場を管理する

■農協とコラボしながら、ノウハウを教えてもらい、遊びや教育に生かす

■ほっとスクールとも連携して、一緒に小さな畑が使えるように整備する

(4) 全グループのまとめ (主な意見)

広場で、だれがどんな活動をしたいですか？ (全グループの主な意見)

1 コンセプト

【前提の整理】

- 利用者の想定
 - ・平日の昼間は就学前の子どもが中心になりそう (保育園の散歩など)
 - ・屋内を使うニーズがあるので小学生も利用する可能性がある
- 実際の利用が想定される世代の子どもの意見を聞いたほうが良い
 - ・遊びの内容を聞くのであれば、当事者である子どもの意見を聞いた方が良い
- 遊び方が決められた遊具ではなく、自然環境の中で自由に考えて遊べるサポートを整える

【この場所の特徴】

- 目 玉：トランポリン (●シール×5)
- 利用対象：乳幼児、園児、未就園児、小学校低学年
- 特 徴：プレーパークとの棲み分け／大人もくつろげる

2 遊びアイデアと環境

【こんな「遊び」があったらいいな】

- らくがきスペース、ローセキで描く、黒板の床 (●シール×4)
- かくれられる樹木 (●シール×2)
- 子どもが何をしたいのか (●シール×1)
- 子どもが「やりたい！」と言った時のために準備しておきたいグッズ (●シール×3)
 - ・体幹を鍛えられる遊具 (スラックラインなど)
 - ・平均台、コンパネ、ロープ、ボックスなど、遊具を自分でつくれる準備
 - ・ハシゴやロープで渡る場所 ・ツリーハウスをつくれるような準備
 - ・古タイヤ、ロープ、水道管 ・子どもが使えるリヤカー
- 生きものの住処づくり (●シール×1) / 自然、虫 (●シール×1)
- 汚れても OK どんこ OK
- 泥んこに汚れた時に洗い流せるスペースも必要
- 木登りができる、火が扱える
- 走れるスペース
- 赤ちゃん用スペース (つき山、すりばちなど)
- 小さい子どもが裸足の感覚を持てるようにする (裸足で歩けるゾーン)
- 火を使って食べられる環境ができると良い
 - ・焼いて食べる活動 (七輪、かまど)
 - ・屋内と屋外を行き来しながらピザ窯、ジャムとパンづくり

Point: : 広場に落ちている木の実を集めて、交流スペースのキッチンでジャムやピザ、パン生地をつくり、広場のピザ窯で焼いて食べることができると、屋内と屋外の関係性を上手に使える

【土の広場の要素】

- 築山 (凹凸、隠れたりハイハイで登れる、木や池、土管 (トンネル) (●シール×5)
- 乳幼児のためには、起伏や斜面、段差やデコボコが必要 (●シール×5)
 - ・乳幼児のためには、築山 (樹木の根っこの盛り上がりのような小さな所で十分)、デコボコ、斜面 ・段差 ・山と穴 ・山の坂を滑り落ちる

- ・石垣を登り降りして遊び、下の方にはクッションになる砂場
- どろんこ／水場（両方必要）（●シール×5）
- ビオトープ（ザリガニやメダカを持ち帰れる）（●シール×3）
- 穴が掘れる（●シール×2）
- 水：使い放題の水／井戸を活用／水場は二箇所→①砂・泥の近く②建物近くに洗い場（●シール×1）
- 水を使って子どもが自由に考えて遊ぶ環境をつくる（●シール×1）
 - ・泥んこ遊び、土、小川 ・水の生き物などと触れられる
 - ・水が流れている ・じゃぶじゃぶ池（石か土か？） ・流れている水場と好きに使える容器
 - Point: : 泥んこゾーンに行けない子どもを対象に、遊びの入り口として、硬い地面に薄く水が張っている、噴水のようなものがつくれると良い。キレイな水場で、広場のシンボル。外周を流れる、浅くて小さな小川もあると良い
- 木：ツリーハウス／木登りできる森（●シール×1）／食べてもよい実（収穫／ジャム・染め物）／ターザンロープ／ハイジのブランコ／ロープをかけても折れない木
- 木を使った遊びができる環境を整える（●シール×5）
 - ・切った木を遊具やイスに再利用するプロセスをみんなでできると良い（●シール×2）
 - ・学校帰りに花の蜜を吸って遊ぶように、自由に食べられる木の実がなる樹木（●シール×1）（ヤマモモ、レッドベリー、ドドメ、サルスベリ・栗・ビワ・楠・榿・あんず・梅、桑の実、柿、グミ、イチジク、夏みかん、ゆずなど）
 - ・芝でなくシロツメクサなどの養生がいらぬ植物を植えたい（●シール×1）
 - ・枯れ落ちた枝を使って遊べるように、枯れ枝が落ちやすい樹木
 - ・どんぐりの実や自然なもので、おままごとができるスペース
 - ・草花を摘んだり、木々で遊べるスペース ・雑草、四季の草花、クローバー
 - ・大きい根っこをよじ登って超えるようなカツラの木
 - ・おしろい花を植えて色水遊びをする ・ぶどう棚のツルの強さをを使った遊び
- 土のある広場の管理
 - ・泥・土・築山は維持管理に手間がかかる（地域で管理している事例が増えている）。
 - ・父親が来やすくなるきっかけとして維持管理の役割があるとよい
- ピクニック、飲食ができる環境を整える

【芝生広場の要素】

- 裸足になれる
- おべんとう広場
- 芝の広場の管理：養生期間長く入れないのはもったいない。むしろ雑草でよい
- ごろごろ転がり落ちる遊び
- はいはいができるお山が欲しい

【楽しそうなデザイン】

- カラフルなタイルで楽しめるようにする（●シール×2）
 - ・壁面に絵の具でペタペタ ・タイル貼りで模様がある（うず、市松模様など）
 - ・タイルを並べて好きに遊べる場 ・カラフルなタイルでシンボルをつくる
 - Point: : 広場内通路は一般的な舗装ではなく、カラフルなタイルやビー玉を埋め込むなど、遊び心を持ってデザインすることで、子どもの遊び場にも使えるようにしたい

3 大人の居場所や関わり

【大人の関わり、場所】

- 大人が楽しめる／親の体験値を上げる（●シール×6）
- コーディネーター（●シール×1）／大人の見守る目（●シール×5）
- 違う年齢の人（●シール×1）や違う年齢の子ども、親子で来られる場所（●シール×1）
- 日よけができる休憩スペース：東屋・キウイ棚（室内でも？）（●シール×1）
 - 子どもが遊んでいる間の休憩できる／建物にグリーンカーテン
- 滞在時間を伸ばすため、大人のためにも日陰をつくった方が良い
 - ・木々の日陰　・木の間にロープを渡し、遮光カーテンのように利用
 - Point:：大人の滞在時間を伸ばさなければ、子どもの滞在時間も伸びない
- 大人の中から隠れられる隠れ家がつくれると良い（●シール×2）
 - ・土管と築山　・小道のような隠れることができる場所　・トンネル
 - ・小屋をつくって、中に入って遊べる空間、ごっこ遊びができる場所　・冒険できる場所

【運営や仕組みに関すること】

- 地域のシニアやボランティアに手伝ってもらいながら遊び場を管理する
- 農協とコラボしながら、ノウハウを教えてもらい、遊びや教育に生かす
- ほっとスクールとも連携して、一緒に小さな畑が使えるように整備する

4 気になること

【気になること：ルールと安全管理】

- モノをつくるとルールができてしまう（●シール×3）
- ルール：小さい子どもの安全を守る工夫が必要。
 - 1) 対象を乳幼児限定にする
 - 2) 年齢により使用の時間帯を決める
 - 3) 年齢によりゾーンを分ける（例えば、小さい子どもが使う場所は「バブバブ広場」とするなど）
- ルール：子どもがのびのびと遊べる場にする工夫が必要。
 - 1) 大人禁止区域をつくる
 - 2) 文句をいう人は入れません（「ここは子どもの創造を育む場」である主旨を伝える）
 - 3) 近隣の理解を得る、大人の意識改革が必要
- 安全な広場にするために、入口に警備員が必要

【管理への指摘・留意事項・懸念点】

- 異年齢の区分け：近くの保育園の子どもたちが遊びに来られる場所、安心して遊べる場所
 - 空間で分ける（時間で区切るなど異年齢の区別は必要）
- 行けばいる「人」：見守りは地域だけで難しい、外遊びのプロが必要（●シール×5）
 - 「放課後子供教室」（文科省）を活用すれば、人件費がまかなえるのでは？
 - ・子どもの声や意見を受け止めてくれる場所になるため

5 室内のアイデア

【室内の要素・室内と連動した企画提案】

- 工房（広場で拾ったどんぐりでものづくり）
- 親子で遊べるトランポリン
- ママがほっと息抜きできる空間（コーヒーがあるとよい）
- 季節ごとに子どもと楽しめる「飼育教室」（ザリガニやメダカ）
- 子どもに向けた教育センターからのお便り
- 高齢者が子どもへ昔の遊びを教える
- 子どもが出店（企画準備から／大人が買う）→中高大生も実施、子どもの見本→活動の窓口
- ボルダリング、大規模なら大きい子ども、小さい子どもは下の方を使う（室内でも OK）

6 その他

【今後の計画の進め方】

- つくる人としての大人の役割（●シール×1）
- ここでの成果をさらに研究してフィードバックすること（循環させる）（●シール×1）
- 施設づくりに「子どもが見える人（普段から子どもに触れている人や専門家）」の参加を

【その他のアイデア】

- 地域の方々が生身近に動物に触れあえる移動動物園（●シール×1）
- 時計（日時計）
- アプローチ沿いにベンチ／背もたれや仕切りなしベンチ
- 動線はユニバーサルにする（遊び場に行く際の配慮も必要）
- 中高生も過ごせる空間（カゲのあるスペース作り）
- ボール遊びできる空間
- 携帯預けボックス（充電かねる）←携帯を手放して子どもと遊ぶ意図で
- 子どもが気軽に入れる様に、柵やゲートなどが冷たなくあたたかい雰囲気のある場所

(5) 講評

鶴川女子短期大学国際こども教育学科

森 眞理 教授



講評というか、感想というか、対話の時ですね。

基調講演でお話しました幼児期から大切にしていこうとする「主体的・対話的で深い学び」(アクティブ・ラーニング)をここにいるお一人お一人が、まさに具現化していらっしゃるのではないかな、と思いました。

先ほどのグループ発表にありましたこと、「初めは子どものためにと考えていた事が、私たちの事になっている」、いうところです。まずは、大人が楽しめることがものすごく大切なんですね。

私は保育者養成に携わっているのですが、本当に泥に触ってみるとか、保育者をめざす人たちが実際にやってみるという体験をしてきていることが最近とても少ないように見受けられます。それは学生も保護者も同様です。ですから、今まで「保育参観」だったのが「保育参加」という形で一日過ごしてもらおうと、子どもってこんなに考えているんだ、こんなふうに捉えているんだ、という事が分かってきて、ただただ危ないとか、といったところから解放されるんですね。

今、皆さんの話を聞いていると、まさに大人も楽しくなかったら、子どもも楽しくない、ということ語られたと思うのです。子どもも楽しくなかったら大人も楽しくないと。そうした両方通行という形がすごく大事で、遊びと遊び場のアイデンティティー形成がすごく課題なのかな、と思いました。

(グループ発表は)子どもを中心に、それを一番小さいところ、真ん中に捉えて、マイクロシステム、メゾシステム、エクソシステム、マクロシステムと捉えた、Bronfenbrenner(発達心理学者)の「生態学的システム論理」の授業を聞いているようでした。そして、今日の学びは、子どもと共にESD(エデュケーション・フォー・サステナブル・ディベロップメント)、持続開発可能な教育につながるのだと思いました。

レッジョ・エミリアのローリス・マラグッツィの思想、レッジョ・エミリア市の市民は、自分たちの町のアイデンティティーとして「100の言葉の町」として、100の考え方、100の感じがあることを大切にしています。そこには、三分の一の確実性をして大切にすることを持ちつつ、三分の二の不確実性という柔軟性を持つこと、それは子どもに委ねるところでもあります。これから多くの世田谷区の方たち、子どもたちもこのワークショップに参加して欲しいなと思いま

した。子どもがこの場をどうしたいのか、どうありたいかをちゃんとリサーチして、対話したい、ということを感じました。

さらに課題としてあるのは『境界線』、ボーダーでは、と思いました。内と外の境界線、大人と子どもの境界線、危険と安全、高い低い、見える見えない、といった境界線。こうしたことが、今回ある意味、課題として明らかになってきたのかなと思います。

次回のワークショップは「内」がテーマだということですが、境界線という課題を含み、私たちに携わる 100 の言葉を広げて、100 の言葉のあるセンターにしていきたいな、ということを感じました。さらに発信していくこと、また、フィードバックしあうことがすごく大事なことだと思いますね。

ありがとうございました。

2019 年度
第 2 回 遊びから学ぼうワークショップ
開催報告書
2019 年 8 月

編集：場所づくり研究所（有）プレイス

〒 156-0044 世田谷区赤堤 3- 3- 1 8 1F

電話：0 3- 3 3 2 4- 0 3 6 5

FAX：0 3- 3 3 2 4- 0 3 7 6